専門部会29年度報告

部会名（　意思疎通部会　）

経過

・今年度５回（６月、９月、12月、１月、３月）開催。

・各部会員（聴覚障害、視覚障害、身体障害、失語症、高次脳機能障害等の各障害当事者　及び家族会メンバー）が日常生活で感じている点、困っている点、障害者差別解消法後の状況等について、意見交換を継続。他障害の課題についても共有し、解決に向け、目黒区や各関係機関へ意見を挙げた。

・目黒区障害者計画の改定に向け、部会での意見をまとめ、パブリックコメントとして提出した。

成果

・本部会は、当事者が自由に意見や困りごと等本音を言える場となっている。

・部会員の中で、他障害への相互理解が進み、共通に使用できる意思疎通支援ツール（デイジー図書、スマホアプリ、オトングラス等）や必要な制度について、情報交換・意見交換が活発に行えるようになってきている。

・高次脳機能障害サポーター講習や失語症会話パートナー養成講座の実施により、高齢の当事者を支援する介護事業者にも、障害やコミュニケーション方法についての理解促進を図ることができた。

・視線入力装置等意思疎通支援用具の支給対象が拡大された。

課題

・失語症、高次脳機能障害者の意思疎通の難しさについては、より理解促進を図る必要がある。

・失語症会話パートナー派遣事業の在り方検討

・手話通訳者の合格者が年々減少している。育成方法難。

・区内には視覚障害者の当事者団体がなく、個人での活動のみとなっている。

・意思決定支援への取り組み。

・本部会は障害当事者が中心となり部会運営を進めている特性がある。活動をどう見える化していくか。

本会での報告事項

・来年度以降、失語症者向け意思疎通支援者養成及び派遣事業が全国展開される動きに併せ、目黒区の失語症会話パートナー派遣事業の在り方について検討を進める必要がある。

・日常的な困りごとして、移動手段の確保が継続して挙がっている。

　具体例）同行援護や通学支援でのヘルパー不足

その他